

【令和5年度教育講演会】武富先生への質問とご回答

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>既習で確実に定着しているから他の学習へ移行する，定着しているから次の知識及び技能の段階に移行するのも大切かもしれませんが，わかってできる活動をたっぷり取り組む中で自分を問い直して肯定的に捉えられるようにしていく取り組みは，どの授業においても大切なのではないかと考えますが，定着していないところを定着できるようにすることや，習得できたら次の段階へ移行することの方が大事なのでしょうか。</p>	<p>講演会当日は，認知発達のプロセス等について，詳細な説明は申し上げませんでした，例えば，ピアジェは，同化と調節と均衡化を認知発達の要諦として挙げています。ご指摘のとおり，個々の児童生徒の実態を見ながら，既存のシエマを活用して必要に応じて更に同化や調整を繰り返すことにより均衡化へと結びつけていく取組等は特に重要になると考えます。</p> <p>習得の速度や生活への般化等の状態は，個々の児童生徒によって異なった状況がありますので，それらの状況を見極めながら指導や支援を行っていくことが大切だと考えます。</p> <p>一方的に習得や定着，次の段階への移行を焦らせる意図で説明していた訳ではありませんが，教育が可能な期間との兼ね合いの中でバランスよくかつ慎重に判断することが重要だと考えています。</p>
<p>年度当初から指導計画と評価規準を設定しておくことについてですが，毎年発達段階の異なる生徒が入学してくるため，必ずしもそれに沿った評価ができない場合があります。また，評価規準ありきで授業をすすめてしまうと，子どもが全く興味を示さなかった場合，子どものせいにしがちです。教師が子どもの見せる姿から授業を問い直し，教材を練り直していくということが年度当初から計画しているとうまく進んでいかないような気がしますがいかがでしょうか。</p>	<p>話題の中では，「年度当初」からということではなく，「単元」サイズぐらいの時間や内容のまとまりごとに評価規準を設定することをイメージしてお話しをさせていただきました。ですので，次々に展開される「単元」とおして児童生徒の学習状況の見取りは異なってくる（より洗練されてくる）と思いますし，実態が教科等の特質を踏まえてよりよく理解できると考えます。また，単元計画や年間指導計画は，適時適切に修正しながら活用することも念頭に置いておくことが必要ではないかと考えます。あくまでも「計画」ですので，実態と掛け離れている状況があれば，適時・適切に修正することが大切ではないかと考えます。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>現在進んでいる学習指導要領改訂に向けての話し合いはYouTubeでも閲覧が可能とのこと。不勉強な質問で大変恐縮なのですが、具体的なサイト等アクセス先をお教えいただけますと大変ありがたく思います。</p>	<p>お問い合わせの情報については以下のとおりです。</p> <p>「今後の教育課程，学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/index.html">https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/index.html</a></p> <p>(2023年9月1日確認)</p>
<p>ルーブリック評価表を作成し、HPなどで公開している学校があれば教えていただきたいです。</p>	<p>ルーブリック評価表をそのままHPで公表している特別支援学校は少ないかもしれません。各特別支援学校が取り組んだ研究成果のまとめである「研究紀要」などに掲載されている可能性が考えられます。例えば、以下に示す情報は「ルーブリック」「紀要」「特別支援学校」を検索キーワードとして検索した場合にヒットした文献等の情報です。</p> <p>○広島県立広島特別支援学校令和元年度研究紀要</p> <p><a href="https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/study_training/306000/r01/306000r0101.pdf">https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/study_training/306000/r01/306000r0101.pdf</a></p> <p>○久保田治助，前田拓磨，藤田勉「特別支援学校小学部における主体的・対話的で深い学びによるタグラグビー実践：鹿児島県立中種子養護学校の小学部体育の授業実践を事例として」鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要第巻30 PPI45-154</p> <p>○福島大学附属特別支援学校令和2年度「教育研究」</p> <p><a href="https://www.ash.fukushima-u.ac.jp/common/pdf/R2kyouikukennkyuu1.pdf">https://www.ash.fukushima-u.ac.jp/common/pdf/R2kyouikukennkyuu1.pdf</a></p> <p>○広島県立三原特別支援学校高等部作業学習新聞第2号（令和4年6月30日）</p> <p><a href="https://www.mihara-sh.hiroshima-c.ed.jp/M-10/DATA/kyoudou/tomoni_tukuru_R04_2.pdf">https://www.mihara-sh.hiroshima-c.ed.jp/M-10/DATA/kyoudou/tomoni_tukuru_R04_2.pdf</a></p> <p>他にも検索キーワードを工夫すれば、関連する情報が得られる可能性がありますので、必要に応じて検索していただけますと幸いです。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>合わせた指導を実施する場合に一つの指導内容・場面で2つ以上の教科や自立活動の目標をねらったり評価をしても良いのでしょうか？例えば、思考力・判断力・表現力等の目標及び内容はいずれの教科においても国語の見方・考え方を働かせる必要があると考えています。一時間の中で、国語と別の教科の思考力・判断力・表現力等の目標を追ってもよいのでしょうか？</p>	<p>ご質問の趣旨は「合わせた指導」という指導の形態における目標設定や学習状況の評価についてだと理解しております。「合わせた指導」では、多様な教科等の内容を扱うことを含めて、関連する教科等の目標を設定して、授業で取り組むことはもちろん可能だと考えています。</p> <p>ご指摘の「国語の見方・考え方」については学習指導要領や同解説上では「言葉による見方・考え方」として解説されています。例えば、算数・数学に関連するテーマ設定において、文章の内容をよく読み取って、言葉を正しく解釈する中で数量関係についても適切に理解し、計算したり推論したりすることが必要になります。立式が成り立つ理由等についても、言葉による見方・考え方を働かせて、相手に理解してもらえらるよう分かりやすく表現（説明）することなども求められる学習場面があるかと思います。</p> <p>そのような点を踏まえても、学習のテーマ設定によっては、1つの授業の中でも複数の教科等の思考力・判断力・表現力等の目標を関連付けて設定したり、評価を実施したりすることは可能だと考えています。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>実態把握について、習得状況や既習事項の確認が必要だと理解しますが、既習か未習かの把握が難しい現状があります。他校から入学した児童生徒は特に情報を得るのが難しいです。習得についてもどう捉え、習得していると判断するのか悩んでいます。アドバイスをお願いいたします。</p>	<p>ご指摘の状況を含め、まだまだ「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」が「情報の引継」のための十分な機能やフォーマットを有していない可能性はどの教育現場においても考えられます。</p> <p>一方で、進学や転入・転出の際に、進学先や転入先・転出先とケース会議を設定するなど、細やかに情報交換をおこなって、これまでの成果と課題を整理したり、今後の学習や生活について展望したりする実践例も伺うことがあります。特に「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の「活用」の在り方については、今後もさらなる工夫が求められるところか思いますし、その余地は残っていると考えています。</p> <p>なお、習得状況について、これまでの実践記録等の蓄積がない場合は、日常生活行動等の観察を含めて、現在、授業の中で展開している単元と関連付けて、既習と思われる内容を質問したり、パフォーマンス課題を設定したりしながら定着や般化がみられるかを把握することが必要になるかと考えます。習得できていない場合は、改めて習得に向けた学習の組立をおこなったり、既存の知識と関連付けて体制化を図ったりするなどの工夫が必要になってくるでしょうし、習得できている場合には、それらを十分に活用できる状況を整備して、多様な場面で活用することを求めたり、更に新しい知識や技能と関連付けて理解を深めたりするなどの取組が必要になってくるかと考えます。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>見方・考え方についてですが、資質・能力に位置付けられていないので評価の対象にはならないと捉えています。しかし、資質・能力を支え結びつけるものだと思っているので、どこかに明記して評価したいです。ルーブリックの評価規準を子どもがどう物事を見て考えていくかを踏まえたものにすることや、エピソード評価、またルーブリックとエピソードを組み合わせる等考えられますが、見方・考え方も評価していいのでしょうか？</p>	<p>中央教育審議会答申（2016）において、「見方・考え方」については『見方・考え方』は、新しい知識・技能を既に持っている知識・技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものである。既に身に付けた資質・能力の三つの柱によって支えられた『見方・考え方』が、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりし、それによって『見方・考え方』が更に豊かなものになる、という相互の関係にある。」と述べられています。最後の「相互の関係」という表記にもあるように、資質・能力と同程度に重要であると考えられますので、学習状況の評価の中で、この点についてふれることは至極当然であり、必要なことだと考えています。</p> <p>ご意見をいただいたとおり、ルーブリックやエピソードを踏まえた評価など、工夫の仕方は様々に考えられますが、特に「深い学び」と関わって、どのような場面で、どのような「見方・考え方」を、どのように発揮していたかについて振り返ることは、児童生徒から見れば学び方の改善や指導者側から見れば指導の改善につながると考えますので、この点に関する評価を組み込むことは工夫の余地として十分に考えられます。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>特別な支援の必要な子どもたちの学習の積み上げを考えると、小学校のように特別支援教育・特別支援学校でもシラバス（学年ごとに）が必要かと感じております。ただ、「諸計画の修正と改善」のシートを伺うと悩みます。また、特別支援教育・特別支援学校では、小学校学習指導要領のように年度ごとに発達段階に応じて系統的に学習することは、子どもたちの発達段階を考慮すると難しいです。高等部生徒で、発達段階は中学部1段階でも、特別支援学校学習指導要領（高等部）の内容（高等部段階）を経験しなければならぬのでしょうか？この点がよくわかっておらず、悩んでおります。御教示ください。</p>	<p>諸計画の修正や改善については、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいて、絶えず見直しや改善につなげ、教育活動の質の改善・向上につなげることが重要だと考えています。</p> <p>また、「発達段階」に関するご質問については、ひとことで「発達段階」と表記することはもちろん可能ですが、その側面は実に多様です。特別支援学校（知的障害）の学習指導要領では、「児童生徒の知的機能の障害の状態と適応行動の困難性等を踏まえ、各教科の各段階は、基本的には、知的発達、身体発育、運動発達、生活行動、社会性、職業能力、情緒面での発達等の状態を考慮して」目標が定められています。さらに、各段階の内容は「各段階の目標を達成するために必要な内容として、児童生徒の生活年齢を基盤とし、知的能力や適応能力及び概念的な能力等を考慮しながら段階毎に配列」されています。すべての目標や内容が対象となる児童生徒にとってふさわしくないものは慎重に見極める必要があると考えます。</p> <p>私自身は特に「生活年齢」への着目は人権への配慮を含めて、重要な視点だと考えています。指導に当たっては「指導計画の作成と各教科全体にわたる内容の取扱い」において「個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮しながら、第1款及び第2款の各教科の目標及び内容を基に、3年間（小学部にあっては6年間）を見通して、全体的な指導計画に基づき具体的な指導目標や指導内容を設定するものとする」と示されていますし、「生徒の実態に即して自立や社会参加に向けて経験が必要な事項を整理した上で、指導するよう配慮するものとする」ことが規定されていますので、これらの趣旨も踏まえながら、経験すべき内容を整理していただけるとよいのではないかと考えます。</p>

質問（一部抜粋）	ご回答
<p>前回の学習指導要領と今回の学習指導要領では、目標や内容の示し方が随分変わっています。今までの個別の指導計画の多くは、教科毎に長期（1年）短期（半年）をざっくり示している学校が多かったように思うのですが、先生が資料で示されたように既習や未履修等（いわゆる学びの履歴）を残していくことが必要かと思ったのですが、今後の個別の指導計画について思われているところがあれば教えてください。</p>	<p>既習や未履修等の内容（いわゆる学びの履歴）を残していくことは補助的な資料として活用できるかと考えています。中心的には、各教科等において、どのような目的のもと、どのような内容を、どのような手立てをもとに学び、どのような成長や変化・変容（資質・能力の育成状況）が見られたかを丁寧に見取っていけばよいと考えています。その際に、障害のある児童生徒には「学習上・生活上の困難さ」があり、その困難さが「各教科等の特質に応じた見方・考え方」を働かせることに対して影響を及ぼすと考えられますので、どのような工夫をおこなえば、「見方・考え方」を働かせやすくなるのか、自立活動の視点を踏まえて記録を残していくことも大切であると考えています。</p>